

## インターネットを使用した英語教育の試み<sup>(1)</sup>

北尾謙治

### はじめに

インターネットの発展はめざましく、急激な普及と共に、その情報量は急増し、非常に便利に利用できるようになってきた。アメリカ、カナダ、イギリスやオーストラリアの大学では、インターネットを自由に使用できる場合が多い。我が国でも、インターネットは、多くの大学に接続され、学習者に自由に使用させている大学も珍しくはない。大きな総合大学では、教員は各自の研究室のパソコンからインターネットを利用できるようになっている。小学校、中学校と高等学校でもインターネットは普及し、数年の内に、インターネットが全国のすべての学校に接続され、教育に利用される予定である。

同志社大学に於いては、1995年4月より希望する学生は登録してEメールを利用できるようになり、1997年度からは全学生に入学時に所属学部と学生番号にリンクしてEメールアドレスを与え、利用のための分厚いパンフレットを配布して、全学生が自由に使用できるようになった。インターネットに接続されたパソコンは研究や事務用を除き、学生の利用のために、田辺校地と今出川校地に約850台設置されている。このパソコンの多くは、クラス用であるが、クラスの空き時間には自由に利用できる。その他に、パソコン専用室では、朝の9時から夜の7時まで利用できる。図書館や就職部でもインターネットに接続されたパソコンを使用できる。自宅から電話回線でも接続可能で、専用の電話回線が216本用意されているので、24時間まずつながら

---

「言語文化」1-1：195 - 220ページ 1998.  
同志社大学言語文化学会・北尾謙治

いことはない。パソコンのある教室には、パソコンやインターネットに詳しい補助員がいて、利用者のトラブルやプログラムの作成の補助をする制度も完備している。このように同志社大学では、学習者は自由にインターネットを使用できる恵まれた環境が整っている<sup>(2)</sup>。

インターネットの普及した海外の地域では、すでに、多くの人々がインターネットを利用した英語教育の試みをしている。インターネットで、種々の英語教育に関する情報、資料、教材などを提供している人や団体も多くある<sup>(3)</sup>。インターネットで教材を提供するようなコースや、遠隔教育も既に実施されている<sup>(4)</sup>。クラスのシラバスや、ハンドアウトなどもインターネットで公開されている。クラスで学習者が仕上げたプロジェクトをインターネットで公開しているものも多く見かける<sup>(5)</sup>。Eメールを利用して、2つの国のクラスが、情報交換をしたり、共同作業をして共に学習したり、教授者が他の国のクラスも教えたりするような試みが報告されている。

我が国においてもインターネットを利用したクラスは実施されており、Eメールの海外との交換などは、数年前から報告されている<sup>(6)</sup>。最近では、Eメール以外のインターネットの機能を使用した英語のクラスなども学会では多く報告されている<sup>(7)</sup>。英語の教材や研究成果の論文などを公開している人々も多々見かける<sup>(8)</sup>。

1997年度のコンピュータを利用した英語のクラスにおいて、インターネットを導入した英語教育を実施したので、本編では英語のクラスでインターネットを活用する方法を具体的に紹介する。このクラスで主に利用したのは、Eメールとワールドワイドウェブ（以下ウェブと省略）で、多くの部分は学内で利用したのみで、インターネットに接続されていなくても、学内のコンピュータネットワークが構築されておれば、多くのことは実施可能である。

## インターネット

インターネットは、学内などの狭い地域のコンピュータネットワークをつなぐ広い地域のネットワークで、国際的なネットワークになっている。

インターネットの特徴を簡単に申せば、情報の共有、世界的なネットワーク、迅速性、多量の情報、分散型、無防備、発展途上の7つの単語で言い表せる。(北尾&北尾,1997)

インターネットを利用する人々は、それにつながったコンピュータ内にある公開された情報を共有し、インターネットに直接接続されたコンピュータは、世界百数十カ国に約300万台あり、そのホストコンピュータに接続された、インターネットを使用できるコンピュータは、数千万台あり、使用者は何億人といえるだろう。Eメールでもウェブでも、そのスピードは、ほぼ瞬時で、回線が混んでいる時でも、数秒で世界中とコミュニケーションができる。インターネット上では、図書館、政府や役所、公的な機関、大学や学校、新聞などの報道機関、種々のビジネスのみでなく、個人でも多量の情報が公開され、恐らく世界一大きな図書館と言える。ただ、図書館と異なり、資料は分散方式で保存され、各々の団体や個人が収集整理して公開しているので、世界全体では、整理整頓され、利用されやすいようになっている訳ではない。これらの資料は、公開されたもので、一般の者では自由に利用できるものがほとんどであるが、最近有料のものや特定の会員などのみに公開した資料も時々見かけるようになってきた。公開した資料はコピーや加工することは非常に容易で、悪用される可能性もないことはない。公開していない資料でも、インターネットに接続されたコンピュータに保存されている情報は、他人に利用されたり、変更される可能性もある。インターネットは、原則公開するためのもので、情報を保護するものではない。

インターネットのサービスには、Eメールやウェブの他に、Eメールを利用して多くの人々が会議をできるメーリングリスト、電子掲示板に掲示を

し、それに質問やコメントをできるニュースグループ、ファイルの送受信をするFTP、他のコンピュータを自分のコンピュータのように使用するTELNET、文字で会話するチャット、テレビ電話のように使用するインターネットフォン、ウェブに多少似たゴーファ、ビデオ会議など多種ある。このなかで筆者が昨年クラスで使用したのは、Eメール、メーリングリスト、そして、ウェブである。

### ワールドワイドウェブ(ウェブ)

インターネットを急激に普及させた原因の一つは、ワールドワイドウェブの発達であろう。タイプすることも不要で、マウスをクリックするのみで、世界中の必要な情報が比較的容易に入手できる。以前はタイプの技能や、プログラミングの知識がないとコンピュータは使用できなかったが、このウェブの発達により、誰もが比較的簡単にコンピュータを使用できるようになった。

このウェブの特徴は、膨大な資料、マルチメディア、インタラクティブな資料、ハイパーリンク、利用の容易さ、容易な作成と情報発信と分散所蔵(北尾&北尾, 1997)という8項目に整理できる。

#### 1. 膨大な資料

ウェブはおそらく世界最大の図書館である。資料の提供は、インターネットに接続できるパソコンと簡単なソフトがあれば、個人でもでき、政府、会社、大学、学校、図書館、博物館、学会などの種々の公共の機関や団体はもちろん、個人や研究グループでもウェブページを開設して、情報提供をしている。自分たちの情報のみでなく、その関連分野で役立つ情報を提供するものが多い。

## 2. マルチメディア

文字のみでなく、絵、写真、動画や音声も掲載できる。ウェブページの作成技術とブラウザの性能が向上して、最近では、非常に芸術的なものを見かける。見ているだけでも楽しくなる高度で複雑な資料も多く、多くの人々を魅惑している。

## 3. インターラクティブな資料

ウェブは利用者が情報提供者にEメールを利用して質問したり、意見を述べたりできる。提供者と利用者が交信をしたり、ともに資料の収集や作成をすることなどが可能で、情報交換や共同作業を可能にしている。

ウェブにはフォームの機能があり、あらかじめ箱が開けてあり、氏名、Eメールアドレス、ホームページ、その他の情報を求められた場所へ書き込んで送るようになっている。中には、そのフォームで指示通りに資料を送れば、自動的に相手のウェブページに追加して掲載されるものもある。

## 4. ハイパーリンク

ウェブ資料作成者が、関連の情報、注、説明などの資料など関連資料のアドレスをあらかじめ組み込んで作成し、利用者は、画面上の色が変わっている文字、単語、語群、文などにマウスを合わせて、クリックするのみで、その資料を容易に呼び出せる。つまり、関連のある情報に次々と飛び回れる。

これがウェブの最大の長所で、これにより、ウェブの関連資料が非常に有効に利用できる。

## 5. 利用の容易さ

ウェブの利用はマウスでクリックするのが主な作業で、タイプが速く正確に打てなくても、誰にでも資料収集や情報交換が容易にできる。よく使用する資料であれば、ブックマークをしておけば、マウスで簡単に呼び出せる。

さらに、ウェブページにある文字や画像は、簡単に印刷したり、ファイルとして保存し、使用することも容易で、テキストの場合は、テキストのみのファイルや、ウェブページを作成するHTMLファイルとしてでも保存できる。クリック、ブックマーク、印刷やファイルのコピーなどの作業は誰にでも非常に容易である。

#### 6. 容易な作成と情報発信

ウェブを使用して情報を提供することも容易である。そのためのHTMLファイル作成のため最小限必要なタグを学習するには、1時間で十分。このファイルを公開するのも、ハードディスクのあるパソコンであれば、必要なソフトを搭載すれば、即世界に向けて情報公開ができる。多くの大学では、ウェブ用のサーバーを持ち、そこに資料を蓄積して個人の情報を発信できるようになりつつある。多少の費用を負担すれば、ウェブ資料をプロバイダーに開設できる。ウェブによる情報を無料で提供させてくれるサービスもある。

ウェブページ(HTMLファイル)は作成する場合、今までのプログラミングでは容易にできなかったことも、比較的容易にできる。簡単なホームページであれば、ほんの数分ででき上がる。すでにあるものをコピーして、文字を入れ替えればよいわけである。タグを勉強しなくともエディターもあるので、ワープロ感覚で気楽に作成できる。

ワープロで資料作成をし、テキストファイルで保存して、その通りにブラウザで読めるようなHTMLファイルを作成するのであれば、ほんの数分しかかからない。

ウェブにより、情報を特定の人々や、不特定多数の人々に発信するのは非常に容易で、研究成果や教材を特定の人々や全世界の人々に容易に提供できる。また、ウェブページの作成方法は他のウェブページをコピーすることで、同じ形式のウェブページが即作成できるので、比較的素人にも容

易に作成できる。仲間のウェブページをコピーして、自分の資料を追加して、より充実した資料を作成するのは容易で、共同作業に非常に役立つ。

#### 7. 分散所蔵

世界中にウェブ資料は分散して所蔵されている。多くのものは、団体や個人が独自に収集したり、作成したもので、その資料の中身は提供者の個人的な責任において提供されているので、内容に間違いや偏見などがある場合もあり得る。現在では、ウェブ資料で第三者の校閲や修正を受けているものはわずかしかない。

図書館と異なり整理整頓がされていないので、ウェブ資料は世界中に無造作に散乱している。資料の重複や、不足もあり得る。似たような資料を統合することは、物理的には比較的容易にできるが、作成者の許可なくすれば、著作権を犯すことになる。

日常に新しい資料が誕生すると同時に、多くの貴重な資料が消えたり、移転されたりしている。今日ある貴重な資料が明日ある保証はなく、新たな資料を見つけるとは限らない。

検索エンジンを使用してウェブ資料の検索は可能だが、どのソフトを使用するか、どのように検索するかにより、各自の必要なウェブ資料を上手に探せるかが決まる。最近情報は多すぎて、自己の必要な資料を探すのも容易ではない。URL: <http://www.ling.lancs.ac.uk/search/search.htm>) には多くの検索エンジンが集められているが、おそらくAltaVistaがもっとも強力で、多くのサイトを見つける。しかし、それだけに、関係のないものもピックアップするので、本当に自分に必要なものを探すには多少の訓練と経験が必要である。

以上述べたようにウェブは、少し勉強すれば、安価な費用で利用でき、英語教育に利用できる可能性は高い。

## 英語のクラスに於けるインターネットの利用

### クラス運営

クラスの運営にインターネットは非常に役立つ。以下に1997年度と1998年度に使用した例を示す。

**講義概要とシラバスの公開** まず、クラスの講義概要は印刷されて全学習者に配布されるが、詳しい内容などはウェブで提示して、講義概要で、そのURLを示す。筆者の場合は、通常最初のクラスでコースシラバスを配布して、全登録者に詳しく説明することになっているが、それをウェブでも公開し、その内容を理解した上で登録できるようにした。1998年度分の講義概要とコースシラバスは、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/>、1997年度分は、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/1997/>で公開している。

今後は、既にクラスで学習した者のレポートやクラスの感想文なども公開して、学習者の意見や、クラスの最終ゴールなどを知ってから登録できるようにすることも考えている。

問題点は、まだ、ウェブの見方を知らない学習者も2年生で約半数おり、知っていても煩雑な登録時期に、講義概要を読んで登録する学習者が約8割しかおらず、ウェブでシラバスまで十分に読まない学習者がほとんどである。外国語のクラスでこのようにクラスシラバスを公開しているのは筆者のみで、学習者も慣れていないのも原因と考えられる。ただし、今後ウェブの利用がより普及すれば、この問題は少なくなるであろう。

**掲示板** ウェブをクラスの掲示板に使用できる。最初の授業でウェブの見方を指導し、クラスの掲示板があることを示し、そのURLを板書した。ここにクラスで教授したことや、宿題を掲載することを告げ、毎週1-2度はチェックするように指示した。



指示された通りにウェブの掲示板を見られた者は半分弱で、同志社大学のコンピュータはすべて大学のホームページが立ち上がるので、その「学部、研究室の紹介」をクリックして、筆者のホームページのリンクに出るようにしてもらった。これにより、まったくタイプすることなく、マウスのクリックのみで、ホームページにはアクセスできるようになり、学習者には便利になった。クラスの掲示板は、本来公開すべきものでもないのに、その後リンクは張らず、学習者が、URLを多少タイプしなければ見られないようにした。1998年度はクラスにより異なるが、見方の説明のみでほぼ全員見ることができた。

掲示板の内容は、上に日付を入れ、そこをクリックすることにより、その日に教授したことと、宿題を見られる簡単なもの。これは単に学習者に掲示するのみでなく、休んだ者にもクラスで何をしたら知らせられ、教授者にとっては、よい記録になる。クラスの前にそれを見て、予習をすればよいわけで、クラスに行く直前にその日にしなければならぬことを再確認できる。1年経てば、1年間のスケジュールの記録が残るので、同種のクラスをする場合には、進行速度などがよく分かり、スケジュールを立てる参考にもなり、授業の計画を立てるのに役立つ。

CAIのクラスでは、クラスで全学習者がコンピュータを使用しているので、オリエンテーションで本来配布するハンドアウトをウェブページにして、クラスでは、それを見せながら、教室やパソコンの使用法の説明をした。学習者は後日いつでも必要な時に、それを見られるので便利であった。

クラスの名簿 Eメールを送る訓練として、学習者にクラスで与えた番号、氏名とEメールアドレスを送るように指示した。その一覧のウェブページを作成して、クラスの名簿とし、そのEメールアドレスを使用してクラスメートにEメールを出せるようにした。Eメールの送り方は、以前はクラス時間を割いて教えたが、1997年度から全学習者はインターネットのパンフレッ

トを手渡されているので、それを見てするか、友人に教えてもらってするようにした。

2年生のCAIのクラスの場合は、半分近い学生がすでにEメールを送った経験があり、どうにか送って来られた者が9割強、その内、件名や本文が指示通りにできた者は、7・8割程度であった。

この名簿を完成すれば、マウスで学習者のEメールアドレスをクリックするのみでEメールが容易に送れるほか、学習者同士で、Eメールを交換させるなどのプロジェクトが比較的容易にできる。教授者が、ある特定の学習者にEメールを送るのも容易で、全学習者のエリアスのボタンを作成すれば、それをクリックして、全学習者に同時に同じEメールを送ることができる。ただ、これは教授者のみが知り、学習者には隠しておく方がよいかも知れない。

学習者とEメールで交信して授業の補助をするのはよいが、多くのEメールを受信する者は見落とす可能性がある。クラス用のEメールアドレスを設けるか、個人のアドレスを使用する場合には、件名にクラスと番号と名前を実際の件名の前に明記させるように最初に訓練することが、クラス運営で非常に役立つ。例えば、「D307 25 北尾 自己紹介の作文」のように記入されていれば、受信メールで学習者の課題を即見つけ、クラス毎に整理して保管できる。このようなシステムでは、クラス毎に課題を提出した者をチェックするなどの作業は非常に容易である。提出期日を厳守することも最初に訓練して、習慣づける必要がある。

#### クラスの準備

クラスの準備にもEメールとウェブは役立つ。日々改善して、ワープロとインターネットを利用して、コンピュータですべてクラスの準備を効率よくできる体制を整えつつある。

掲示板 上記で説明した学習者用の掲示板は、教授者にとってはクラスの記録で、次回のクラスの準備に非常に役立つ。クラスの準備では、必ず前回のクラスの記録をまず見る。クラスの直前にも見て、その日のクラスであることを確認する。

ウェブ教材図書館 インターネット上には教材や英語の学習者が書いたエッセイなどが公開されているので、時間の余裕のある時にクラスで使用できる教材などを収集して、整理したリンク集のウェブページを作成し、必要に応じていつでも使用できるようにする。

クラスで使用する教材をワープロで作成し、整理して、必要に応じてクラスで提示できるようにしておく。

クラスの目的に応じて教材を準備するが、余裕のある時に、学習者のニーズを調査し、その教材を用意して、個別に学習できるようなシステムも構築する価値がある。

英語教育の資料として役立つように、On-Line Resources and Journals: ELT, Linguistics, and Communication (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/>)を用意しているので、参照されたい(Kitao, 1998)。

教授者用のメーリングリスト クラスに関することで種々の情報を入手するのに役立つのはメーリングリストである。

メーリングリストとは電子会議室とも呼ばれ、1台のコンピュータを介して、何人もの人々が、意見交換をできる仕組みで、メンバー全員にEメールを送るかわりに、中央のコンピュータにEメールを送れば、コンピュータが全メンバーにそれを配布する。これに返答や反論があれば、返事をコンピュータに送れば、コンピュータは全員にそのEメールを配布する。このようにコンピュータを介して討論を続ける仕組みである。

この会員になれば多種多様の情報が入手できるが、最も役立つのは、何か

情報が必要な場合や、手助けが必要な場合に、援助を依頼すれば、多くの場合24時間以内に返答が得られる。メーリングリストを有効に使用するには、有益な情報が来るのを待つのではなく、質問をして、情報収集をすることである。

英語教育に役立つメーリングリストは、Useful Lists for TEFL/TESL (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/list/lis-tefl.htm>)に集めてあるので、参照されたい。日本国内では、EFLJ、海外のメーリングリストでウェブやコンピュータに関することでは、TESLCA-LとNETEACH-Lの情報がとくに役立つと思う。

ハンドアウトの保管と閲覧 クラスで配布するハンドアウトを保管し、仲間の教授者と分かち合うことができる。筆者の場合は、クラスの最初に学習者の調査をするための調査書を現在掲載している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/handout/survey.htm>

これは学習者に配布するかわりに、長いものであれば、コンピュータ室で閲覧させることも可能だ。ESLグレイデードリーダーズのリストは、コピーすれば16ページに及ぶので、閲覧のみの利用方法を取っている。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/graded/esl1list.htm>

ただ、短いものであれば、閲覧すれば、めんどろなで見ない学習者が何人か出る可能性があるので、やはりハンドアウトはクラスで配布したほうがよい場合もある。

調査書のように記入して提出させる場合には、クラスを休んだ者には、それをコピーして、提出するように指示することも可能だ。

ウェブはリンクを張ることが可能なので、他のウェブページにリンクして、関連の資料を入れたり、課題は、すでにある教材のページにリンクして、その学習方法のみを提示したりすることなどにより、多くの関連のページを取り込んで作成できる。

### クラスの活動

実際にクラスでパソコンやインターネットを使用することもある。パソコン教室では、実際に操作やウェブ資料を見せながら、または、学習者が教授者の指示により、実際に確かめながら、授業が進められるので、さほど問題は無いが、パソコン教室以外では、クラスで、操作方法やウェブのURLのみを示して、学習者は後に独自で使用するので、よほど分かりやすい指示をしないと、教授者の期待通りの作業ができないので注意が必要である。

**タイプ** パソコン操作の基本はまだ入力に必要なタイプである。ウェブで掲示や資料を見るのみであれば、マウスの操作で十分であるが、どうしても今後はワープロやEメールが必要であるので、タイプは欠かせない。しかし、学習者の大半はタイプができないので、何等かの指導が必要で、CAIのクラスでは、タイプの練習用のソフトを開発し、それを利用して指導した。そのソフトが使用できないクラスでは、ホームポジションとどのキーをどの指でたたかかのみを指導をした。

ホームポジションを体得した学習者は非常にタイプが上手にできるようになるが、我流でタイプをした者は、いつまでもキーボードとにらみ合いでタイプしなければならない。それで、ホームポジションと正しい指使いのみはクラスで指導した方が、2講時無駄になるようだが、結局学習者には時間と労力の節約になる。

今年からは、インターネットでダウンロードできるフリーウェアのMIKATYPE (<http://www.asahi-net.or.jp/BG8J-IMMR/>)も使用している<sup>(9)</sup>。

**Eメール** Eメールも以前はその利用方法を指導したが、使用の手引きが充実してきたので、それで個人学習をさせた。ただ、Eメールとは何か、Eメールを使用するためのマナーであるネチケットは、以下の準備した教材を読ませた。

E-Mail (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/email.htm>)

Netiquette (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/internet/art-netiquette.htm>)

Eメールで学習者がよく起こすトラブルは、長い行を書くことで、1行を60字以内で区切り、あまり長くないようにすることを教える必要がある。ユニックスの場合は、直接書き込むと訂正しても実際には訂正にならないので、必ずワープロなどで原稿を書いて、それをコピーして送信することを教える必要もある。時間があれば、返信の仕方や、相手のメッセージを編集して、自分のメッセージを書き込むことなども教えるとよい。

Eメールを交換して英語を学習することは世界的に盛んで、個人やクラス単位で行われている。中には、外国語を勉強する者同士、例えばフランス語を勉強するドイツ人とドイツ語を勉強するフランス人のEメールの交換をアレンジしている場合もある。この場合は、各自自分の学習している外国語でEメールを送り、相手からは母語のEメールを受け取る。Eメールの交換プロジェクトなどに関する記事もあるので、Keypal Opportunities for Students (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/keypal.htm>)を参照されたい。

学習者用のメーリングリスト Eメールに慣れると、学習者同士で英文手紙の交換をさせるのもよいが、この場合、コピーを教授者にも送らせると、どのような内容を書いているか分かるし、学習者もより真面目に書くのでよい。

クラス単位でEメールの交換をするには、Intercultural E-Mail Classroom Connections (<http://www.stolaf.edu/network/iecc/>) が役立つ。メーリングリストで、希望の国、英語のレベル、人数、その他の情報を知らせれば、関心のある教師がおれば、返事がもらえる。自分のやりたいプロジェクトなどを説明して、協力者を探すのにも便利である。学習者に異文化学習の調査をさせるためのメーリングリストとして、IECC-SURVEYSもある。Eメール交換プロジェクトの討論をしたり、企画をするためのメーリングリストとしてIECC-DISCUSSION やIECC-PROJECTS もあり、すべて活発な討論が行われ

ているので、大いに参考になる。

大学レベルの英語学習者が気楽に英語でコミュニケーションをするためのメーリングリストとして、学生リスト(SL-LIST)がある(<http://www.latrobe.edu.au/www/education/sl/sl.html>)。このリストには、以下の10のリストがあるが、すべて英語学習者が、英語でコミュニケーションをして英語学習をするためのものである。

INTRO-SL	Discussion List for New Members
CHAT-SL	General Discussion List (Low level)
DISCUSS-SL	General Discussion List (High level)
BUSINESS-SL	Discussion List on Business and Economics
ENGL-SL	Discussion List on Learning English
EVENT-SL	Discussion List on Current Events
MOVIE-SL	Discussion List on the Cinema
MUSIC-SL	Discussion List on Music
SCITECH-SL	Discussion List on Science, Technology & Computers
SPORT-SL	Discussion List on Sports

このメーリングリストは、教授者が登録をし、オリエンテーション用の資料を受け取って、学習者に利用方法などの説明をする。この教材はうまくできていて、よいEメールの書き方などの解説もある。

全員まず入門用のINTRO-SLを購読する。最初は他のメンバーがどのようなメッセージを送っているかを観察し、よいメッセージと悪いメッセージを3つずつ選ばせ、なぜそれがよいか、または悪いかなどの討論をクラスでする。それ以後、自信のあるものから順次メッセージを送らせた。最初は、クラスで書いた自己紹介の英文を利用できるように配慮しておいた。送ったメッセージはすべてコピーを残し、学期の最後にまとめて提出することを義務づけた。メッセージは何度送ってもよいが、返事をもらうことが目的で、もらった返事もコピーして同時に提出させた。

学習者に気楽に英語を書く訓練にはよいが、返事をもらうことは、さほど容易でないで、流されているメッセージに回答する課題も出した。

この学生リストは、クラスとして教授者が登録をしなければならないが、クラスが終わってからも個人的に学習者が続けることは可能であるので、大いに英語によるコミュニケーションを励ましたい。

この他にも学習者用のメーリングリストがあるので、Student Lists: Useful Lists for Teaching/Learning English and Japanese (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/list/lis-stud.htm>) を参照されたい。

教材の図書館の利用 教材をあらかじめウェブページにして、学習者に利用させるのは簡単である。たとえば、クラスの最初に、“An English-Speaking World” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/student/kenji.htm>) を読ませて、英語がなぜ世界でよく使用されるのかを理解させ、考えさせた後の次の授業で、“Why Do We Study English?” の英作文を書かせた。

ESL graded readers が図書館に千冊近くあるので、その紹介と蔵書のリストのウェブページを作成し、各自に好きな本を読ませたが。これはなかなか人気があった。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/graded/>

語彙や会話の問題も作成して、CAIのクラスの学生に利用させた。今では文法、TOEFLなどの練習問題を1,000題以上所蔵している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/material/quiz/>

学習者にはTOEICに対する関心が高いので、その解説などもウェブページに掲載した。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/kyozai/TOEIC/>

英語で使用する語彙は文化的な意味をもつものが多いが、その内容を知らずに英語を使用しようとしても意味を的確に理解したり表現するのが難しいことが多くある。それで、文化的な意味の強いものをピックアップして解説



をした「アメリカ文化の背景」もある。これは150語ほどあり、現在も追加している。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/japanese/library/kyozai/culture/>

ウェブを使用するには、その内容、有効な利用方法を知ってからにする方が有効である。それでウェブに関する解説の“Using the World Wide Web (WWW)”も作成した。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/www.htm>

Eメールを使用するので、Eメールとは何か、どのように利用するか、どのようにEメールの文章を書けばよいかを教えるための解説の“E-Mail”も用意した。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/email.htm>

学生リストを利用するクラスのみ、メーリングリスト（電子会議室）の解説、“Computer Lists, Newsgroups on Usenet, and E-Mail Newsletters”を読ませた。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/list.htm>

イギリスやアメリカに留学を希望している学生も結構多いので、イギリスとアメリカの大学院の違いを解説した“British University Education--A View from a Japanese Scholar”も関心のある学生には読ませた。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/student/educatio.htm>

今年になってから、“Why Don't You Study Abroad?”も作成し、留学希望者には読ませることにしている。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/student/abroad.htm>

英文学に関心の高い学生のために、ブロンテ姉妹、ディッケンズ、シェークスピアとワーズワースの紹介記事も用意した。

<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/literatu.htm#readings>

この他にも沢山の教材を用意して、クラスの内容や学習者の関心に合わせて利用している。

Eメールとの組み合わせ クラスでEメールを使用しておれば、ウェブページで、種々の課題を出し、その作業結果をEメールで回収して、それを掲載したウェブページを作成し、クラスに提示することは可能だ。もちろん、課題はEメールや書類でもよいのだが、ウェブの場合は、いくつかの長所がある。

たとえば、課題をいくつか用意して、その一つを選ばせる場合。このような課題は、暇なときに作成して、蓄積すればよいわけで、しかも、1度作成すれば、労力なしで、何度でも利用できる。

Eメールよりもウェブページのほうが読みやすく、理解しやすい。そして、長いものは、Eメールでは扱いに困る学習者もいるようだ。

ウェブページに教授者のEメールアドレスを入れておけば、クリックすることで送信できるので、即回答を送ることも可能なので、簡単な課題にも適している。

短所は、多くのウェブページを作成しておれば、課題を出すときなどに、何が何だったか分からなくなることがある。各ページの簡単な内容や使用方法を整理しておくことも重要である。

ウェブ資料 英語の教材や、学習者が興味を持つような英語のページのリンク集を用意し、そのリンクをたどって、英語学習者に役立つページを3つ選ばせ、なぜそれが役立つかの解説を英語でする課題は、人気があった。これは、ウェブ資料に親しみ、関心のあるページ探しに役立ち、しかも英作文の練習になる。このようなページのリンク集を作成し、種類分けすると面白いリンク集が出来上がるだろう。

学習者にこのような学習をさせるには、“Reference Materials for Students and Researchers” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/referenc.htm>) には、とくに学習者に役立つ参考資料が多いので、ネットサーフィンにはよ

い資料と思う。コミュニケーションのクラスでは、“Communication” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/communi.htm>)が、文学専攻の学生であれば、“Literature” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/literatu.htm>)、英語の学習者には、“Useful Resources and Learning Materials for Students” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/student.htm>)など、役立つ資料を多く提供している。

**検索エンジン ネットサーフィンの後に、検索エンジンでウェブ資料を探す方法も指導した。** <http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/referenc.htm#search>に検索エンジンのリンク集がある。筆者のクラスでは、ALTA VISTA が最も強力な検索エンジンであるので、その使用のみ指導した。この使用には、“Search the Web” (<http://www.ling.lancs.ac.uk/search/search.htm>)が役立つ。

**ウェブのリンク集の作成** 検索エンジンを使用して、京都の英語のウェブ資料集の作成をさせた。ウェブページは、“Using the World Wide Web” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/kitao/int-www.htm>)を利用して、簡単なウェブページの作成方法を指導し、京都に関連するリンク集を作成させた。その成果は、“Kyoto: Ancient Capital of Japan: Student Project (Summer, 1997)” (<http://202.23.150.181:80/users/kkitao/class/kyoto/>)として公開している。

学習者はウェブページを作成することには非常に興味を持ったが、英語の学習を忘れ、日本語のリンク集を作成した者が多くいたので、1行ほどずつの英語の説明を入れさせた。英語のクラスでインターネットを学生に利用させる場合は、英語から離れないように注意する必要がある。

**学習者の成果報告と情報交換** CAIのクラスでは、学習者の英作文のウェブ

ページを作成し、お互いの作文を読めるようにした。タイプができるようになれば、最初のクラスで自己紹介の英作文をさせて、書き方などのコメントもしているので、それを踏まえて、ワープロで自己紹介を書かせ、皆に紹介した。どのようなクラスメートがいるかも分かり、学習者からは喜ばれた。

後期には、作文をウェブで皆に読めるようにし、そのコメントや訂正方法を、Eメールを使用して、クラスメート同士で送らせた。皆に読めるようにすると、教授者のみが読む場合と異なり、非常に真剣に作文を書くことが判明した。クラスメートや教授者のコメントにより、訂正された作文も皆で読めるようにしたが、以前のものも読め、比較できるようにして、どれだけ進歩したかも分かるようにした。

この作業をするには、既に説明したクラスの名簿が非常に役立つ。学習者がコメントを真面目にするように、そのコピーを保存させ、送信者も受信者も、クラスの最後に、まとめて提出させた。完成して、最後にその作文の評価もさせた。5段階の成績も付けさせたが、もちろんその理由、よい点と改善すべき点を指摘させた。これも提出させたが、作文では、必ずしも十分に表現できなくても、多くの学習者は、英作文の重要なことは、一応理解はできるようになったと思う。

この作品は、“Kyoto: Ancient Capital of Japan: Student Project (Winter, 1998)” (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/class/essay/>)として公開している。

ニュースレターや文集 学習者の学習意欲を高めるために、よく英作文のクラスで、ニュースレターやエッセイ集を発行するようなことが行われてきた。最近では、そのような作業をウェブを使用して実施されている。

この場合に学習者にウェブページの作成もさせるか、単に英作文のみをさせて、それを、ウェブページに掲載する方式を取るかは、難しい選択だ。ウェブページの作成は、学習者も非常に興味を持つ。しかし、それが中心の作業になって、肝心の英作文がお留守になっているケースを多く見かける。

単なるエッセイ集もよいが、テーマを決めて、それにもとづいて、一つのまとまりのある、図書の作成を目指し、公開すれば、学習者のみでなく、他の英語の学習者にも非常に役立つ。これにより、自分の意見を単にまとめるのみでなく、あるテーマに関しての学習や見学などが行えるので、よい思い出にもなる。

研究成果の報告集として作成されているものもある。1年間各自のテーマにもとづいて研究し、その成果を公開しているもので、インターネットで、資料を収集し、クラスでの討論や発表を踏まえ、英作文の練習をして、その成果を発表している。

ときには、英語のクラスではなく、芸術や歴史などの他のクラスの勉強をし、そのレポートの作成として、英語で書き、その成果をウェブページにしたものもあった。

筆者のクラスでは、上記の京都のエッセイ集に表紙を付け、各自に写真なども収集させ、筆者の写真も入れたようなエッセイ集にしたかったが、学期末の多忙なため、芸術的な面では十分と言えないが、一応文集の形にはした。ニュースレターなどで、もっと頻繁に、気楽に出版するのもクラスの書く意欲を高めるにはよいかも知れない。インターネット上には、英語の学習者の英語の記事を掲載したジャーナルなどもあるので、それに投稿して掲載してもらうことをクラスのゴールにするのも一案である。

#### インターネットの成果

インターネットを使用すれば、より多くの教材、資料、参考文献などを使用して、学習できる。ウェブを使用することにより、海外の資料も自由に使用でき、文字のみでなく、画像や音声も伴った立体的な学習をすることにより、より理解を深めることができる。

クラスの運営にもウェブやEメールは非常に役立つ。これらにより、学習者により親密な関係を維持して、頻繁にコミュニケーションを図ることに

より、きめ細かな学習の手助けをすることができる。

ウェブは教材の整理や提示にも非常に役立つし、クラスの準備にも欠かせない。

しかし、インターネットが最も重要なのは、今までの人工的な語学学習をより意味のある、真のコミュニケーションとして学習することである。つまり、言語は単なる記号ではなく、人間が意志や感情を伝え合う、情報交換をする手段であることを学習者は実際に体験することで、言語の意味を理解した。例えば、英作文にしても、単に教授者が読んで、間違いに赤を入れるのではなく、多くの友人も読み、共に経験や考えを分かち合ったことはよい経験になったと思う。例えば学生リストのEメールの交換にしても、決して英語の間違いを修正されることはない。しかし、コミュニケーションを通して、学習者は、より正確に通じる英語で表現することを十分に学んだ。これは、教授者の指導のみでは得られない学習経験で、重要なことである。

今後インターネットが益々使用されるようになるが、これを通して、真のコミュニケーションを学ぶようにしたいものである。

#### おわりに

コンピュータを使用して、より個々の学習者に合った個別化された英語のクラスを目指して、もう10年経つ。その間に種々の取り組みをし、多くの教材を開発し、少しずつ改善しながら、CAIのクラス運営をしてきて、筆者なりに満足のいく成果を挙げていると思う。

しかし、CAIのクラスはつい人工的な、無味乾燥なクラスになりがちである。それに比べて、このインターネットの利用は、より多く実際に使用されている英語の触れるのみでなく、英語を実際のコミュニケーションに利用して、理解し、自己表現をすることを学ぶ画期的な学習である。わずかの期間、種々の試みをしたのみであるが、その経験を少しでも多くの語学教授者に理解し、実践していただければと願い、報告した。

今後は、インターネットの他の機能を試したり、どのように組み合わせて使用するのにより有効かなど、より効果的な英語のクラスをめざしたい。

今後は、学習者の反応や客観的な語学教育の効果を示すこと、語学教師の情報交換などにインターネットを効果的に使用する方法などを公表したいと思っている<sup>(10)</sup>。

#### 注

- (1) この報告は同志社大学1997年度学術奨励研究費を受けて実施した研究成果の一部である。
- (2) ここで述べた同志社大学の環境は、1998年5月現在のものである。
- (3) 英語教育、言語学とコミュニケーション学に役立つ資料集を構築し、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/>で公開している。  
この資料を、読みやすくまとめたものが、Kitao, K. (1998). *Internet Resources: ELT, Linguistics, and Communication*. Tokyo: Eichosha である。  
英語教師に特に役立つウェブ資料は、Useful Resources, Lesson Plans, and Teaching Materials for Teachers (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm>)にまとめてある。
- (4) 遠隔教育に関するリンク集は、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/referenc.htm#distance>で公開している。
- (5) 英語の学習者のクラスプロジェクトは、以下にまとめた。  
Student Projects (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm#student>)  
Student Work (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/keypal.htm#work>)  
Eメールを利用したプロジェクトなどの成果報告は、Computer Assisted Language Learning (CALL) (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/library/article/call/>)に収録している。
- (6) Eメールを使用した英語学習者の英語による発信は多く学会などで発表されている。以下の報告は、学生用のメーリングリストを使用したもので、参考になる。  
Hayasaka, K., Horiuchi, M., & Yoshida, M. (1997). Japanese EFL students developing English discussion through e-mail. *TEFL NEWS*, 1(2). <http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/teflnews/v1/n2.htm#hayasaka>
- (7) 筆者が参加した以下の学会で、多くの発表があった。

New Perspectives on Teaching and Learning English in Asia: The First Pan Asia Conference (January 5-7, 1997) (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/teflnews/v1/n1.htm#panasia>)

TESOL '97 (March 11-15, 1997)(<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/teflnews/v1/tesol.htm>)

The Foreign Language Education and Technology (FLEAT) Conference III (August 12-16, 1997) (<http://202.23.150.181:80/users/kkitao/teflnews/v1/n3j.htm#FLEAT>)

Writing the Future: The 10th Writing and Computers (WriCom) International Conference (September 18-19, 1997) (<http://202.23.150.181:80/users/kkitao/teflnews/v1/n3j.htm#WRICOM>)

Theory and Practice of Multimedia CALL (September 21-23, 1997)  
(<http://202.23.150.181:80/users/kkitao/teflnews/v1/n4j.htm#exeter>)

TESOL '98 (March 17-21, 1998)

(8) 日本人のウェブページは、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/Japanese/online/#kyoshi>で、外国人のウェブページは、<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/online/www/teacher.htm#people>に、そのリンクを収集して公開している。

(9) MIKATYPEは今村二郎氏がフリーソフトとしてオンラインで提供されているもので、フロッピーにダウンロードして容易に使用できる。種々の指使いの練習ができるほか、1分当たりのストローク数を測定して、成績とスピードを記録できる。これで基本的なタイプの練習をすれば、MIKATEXTで、長文の英語のタイプも練習できる。このソフトでは、タイプする教材は、各教授者が用意することも可能である。これは、<http://www.asahi-net.or.jp/BG8J-IMMR/>で公開されている。

(10) 日本の英語教育とその関連分野を海外の人々や日本語をよく理解しない人々に紹介するためにTEFL NEWS (<http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkitao/teflnews/>)を発行しているため、関心のある人々は投稿されることを望む。

#### 参考文献

- 北尾謙治&北尾S.キャスリーン (1997) 英語教育のためのパソコンとインターネット  
— より効果的な英語教育を求めて 洋版出版
- Kitao, K. (1998). *Internet Resources: ELT, Linguistics, and Communication*. Tokyo: Eichosha.



## Using the Internet for Teaching English

Kenji Kitao

Key words: the Internet, teaching English, class administration, the World Wide Web (web), teaching materials, e-mail

The Internet is very useful for English teaching. I have used it a great deal for CAI English classes and some for other classes since 1997. I found that it was very useful for class administration, preparation for classes, and teaching. In this paper, I will explain what I did and how it worked.

For class administration, I made a web page with class syllabi as well as course descriptions, so that students could understand what we would do before they enrolled my classes. I also made a web bulletin board and posted information about in-class activities and homework so that students who missed classes could catch up. In addition, I made a list of the e-mail addresses of all the students, so that I as the teacher or their classmates could send an e-mail to a particular student by just clicking on the name, which was very useful for communication among students as well as between me and the students.

When doing class preparation, I used the web bulletin to check what we had done and what we had planned before the class. I made a web library to store teaching materials, both my own materials and links which I was planning to use in class. I used mailing lists to collect useful materials for

my classes, and I posted messages on lists to gather useful information and ideas for teaching.

For teaching, we used Student Lists. Students exchanged messages with non-Japanese students. They were happy about their real communication in English.

I taught the students about useful web resources for studying English and let the students net-surf to find resources and learning materials for themselves. They learned how to evaluate web pages.

Students made a web page with links related to Kyoto, using a search engine. They learned how to use search engines and how to organize information on the web.

Student essays were posted on the web. All of the students could read their classmates' essays. We exchanged comments, and they rewrote their essays. At the end, we made an on-line collection of essays as a permanent record.

This was the first time I had used e-mail and web pages extensively in English classes. The Internet was very useful for administering, preparing for, and teaching English classes. However, it was wonderful because it made the English classes that were communicative and meaningful for students. The students enjoyed the classes a great deal, and I learned some techniques for using computers in classes as well as some dos and don'ts for using them, which I will share in this paper.